

明日に向かって翔べ

少年期のスポーツ
活動

1984
作品ナンバー0234

文部省選定

受験戦争に明け暮れ、登校拒否、家庭内暴力、非行問題と、子供を取り巻く環境はあまりにも問題が多い。映画は、こうした社会情勢のもとで、子供たちの健全育成に大きな関わりのあるスポーツ活動のあり方と、指導事例を紹介している。



子供のスポーツは、本来遊びで楽しいはずだが、大人主導型になりがちで、勝つためのハードな練習を強いられ、発育や発達に好ましくない影響を及ぼす傾向にある。成長過程にある少年期の体は、大人とはその機能や働きが違い、誤ったトレーニングや片寄った体の使い方で、骨や関節、筋肉等に障害を起こすことがある。例えば野球のピッチャーとして過度の投球をすると、関節の軟骨の一部が骨片に変化する「関節ネズミ」の状態になって、一生肘が完全にのびなくなることがある。また度を越したトレーニングは、関節障害や疲労骨折を起こす。子供には、多くの動きを取り入れた種目を偏らずに行なうのがよい。

茨城県桜村並木サッカー・スポーツ少年団。年齢と能力に応じた動きを団活動に取り入れ、指導者も加わってのボールあてゲームなど楽しいプログラムが行なわれている。練習試合は、成果の発表であると共に、個性発見の場でもある。

埼玉県所沢バレーボールクラブ・スポーツ少年団。練習の始まる前に高学年は自分たち発案の運動を、低学年には動かくなるようなプログラムを用意し、母親には、ファミリースポーツに参加してもらい理解を深めている。

千葉県館山市の神戸剣道スポーツ少年団の黒川さんは、団結成から18年、家業の傍ら指導にあたってきた。大先輩の上野さんも「子供たちにスポーツを楽しんで、生涯続けてほしい」と願っている。

記録
16ミリ
カラー／30分

- 企画
(財)日本体育協会
日本スポーツ少年団
- 監修
筑波大学助教授・日本
スポーツ少年団指導
育成部会プロジェ
クト員 萩原武久

スタッフ

- 製作
村山和雄
- 脚本
福間順子
川田一郎
- 演出
川田一郎
- 撮影
村山和雄
田中宣勝
- 照明
浅見良二
- 音楽
愛場俊彦
- 解説
武田 広